

# 研究の概要と今年度の研究

平成28年4月12日（火）

石中社研究員 飯田 浩貴

（北広島市立大曲中学校）

## I. 研究主題

### 未来をきり拓く力をつけた子どもの育成

～思考・判断・表現の力を高める課題の設定と教具の工夫を通して～

## II. 研究仮説

思考・判断・表現の力を高める適切な課題を設定し、指導内容や学習活動に応じて工夫した教具を用いる授業を展開することで、主体性や論理的思考力、コミュニケーション力などの「未来をきり拓く力」を育成することができる。

## III. 今年度の研究について

### 1年次 思考力・判断力を高める課題の設定と教具の工夫

今年度の石中社部会員

全員の取り組みとして…

- ①「思考力・判断力を高めるための教師側の工夫」を盛り込んだ授業を実践。  
～効果的な切り口やアプローチには、どのようなものがあるか。  
多様化する教具を、どう効果的に活用するか。
- ②第二次研究協議会時（10月14日）に、実践例をまとめたレポートの交流をする。  
～提出レポートは、今年度も指導案形式にはこだわりません。

#### ＝第二次研究協議会の授業について＝

今年度の第二次研究協議会は、千歳市で開催されます。今年度の研究の重点を踏まえ、思考力・判断力を高めるための「教師側の切り口やアプローチの工夫」「教具の工夫」を盛り込んだ授業の公開をお願いします。

指導案の形式については、夏休み前にHPにて提示させていただきます。

## 【今年度の研究イメージ】



毎時間の授業を通して目標を達成するためには、冒頭の学習課題が適切かつ明確であることも必要ですが、生徒たちが思考・判断・表現を重ねながら課題解決に取り組む中で、それらの力を活用し、高めるための効果的な切り口や段階的なアプローチも重要です。今年度からの研究における「課題設定の工夫」とは、そうした展開途中での段階的な「投げかけの工夫」として捉えてください。

また、教具の工夫については、まず「教材」と「教具」との定義分けが必要となります。これには様々な解釈があり、絶対的な定義が存在している訳ではありません。石中社では、学習素材や内容、それを示した諸資料など、情報的なものを「教材」と定義します。一方、教材を効果的に習得させるために使用する道具や機器など、物的なものを「教具」と定義します。従って、黒板（電子黒板）、書画カメラ、パソコン、掛図、地球儀、マグネットシート、マーカーペン、実物資料などが「教具」にあたります。なお、生徒が所持・使用する教科書、資料集、地図帳などについても、今回の研究では「教具」として扱うこととします。

研究計画の詳細については、『石教研』（2016. 3. 4 No. 371）の「社会（中）部会研究計画」（19～22 ページ）をご覧ください。

また、石中社ホームページでも、様々な情報を提供してまいりますので、是非ご活用ください。

石中社 (<http://www.sekikyoken.com/bukaiHP/s04/s04index.htm>)

一年間、宜しくお願いします！